

第2回 鹿島港カーボンニュートラルポート(CNP)形成計画作成ワーキンググループ

議事概要

会議概要

日時：令和3年9月3日（火）15:00～16:00

開催形式：Web 会議

議事内容

○事務局から資料に沿って説明

- ・鹿島港におけるCO₂排出量の推計（暫定値）及び水素等需要ポテンシャル（暫定値）を示すとともに、水素等需要ポテンシャルから必要となる施設規模（試算）を説明した。
- ・「鹿島港CNP形成計画（原案）」の作成に当たっては、「CNP形成計画策定マニュアル（ドラフト版）」（令和3年8月31日、国土交通省港湾局）を活用し、次回のCNP-WGで提示する旨説明した。
- ・鹿島港における将来（2050年）のCNP形成イメージ案を提示した。各企業におけるご意見等を踏まえ、事務局にてとりまとめ作業を進める。

○各企業における脱炭素化に向けた取組について紹介

- ・荷役機械におけるCO₂削減が重要と認識。荷役機械・車両メーカーと協力して脱炭素化を進めていきたい。
- ・曳船における燃料転換としてLNG・水素・燃料アンモニアの導入を想定している。実用化を見据えつつ、既存船舶の更新時に先進的導入を検討したい。
- ・脱炭素化に向けた技術開発、船舶イニシャルコスト・燃料コストの低減、ランニングコストの高まりに合わせた財政支援、人材育成、法規制の緩和等の環境整備が必要。
- ・公共ふ頭においては船舶陸上電源、上屋の太陽光発電、荷役機械への再エネ導入を検討していきたい。
- ・鹿島臨海コンビナートではエネルギー供給元が共通であるため、エネルギー部門（火力発電所等）へのヒアリングも必要ではないか。
- ・鹿島では複数の企業が同一のパイプラインを使ってエネルギー供給を行っている点が強みであるが、他方、1社では決められないことがある。本CNP-WGでは複数の社が参加しており、将来像を考える上では良い場となっている。
- ・仮に水素をパイプラインで供給することになれば、相当なイニシャルコストになる。将来のエネルギーコストが現在の化石燃料と比べて何倍になるのかといった視点も必要。
- ・洋上風力発電については、鹿島港で取り組んでいる着床式に加えて、浮体式も含めて、将来像にしっかり盛り込んでいただきたい。

以上